# 年頭の挨拶

明けましておめでとうございます。

穏やかなお正月を迎えられたと思います。

昨年はコロナ感染症も５月８日にインフルエンザと同様の５類感染症の扱いとなり、人々の行動も活発になりました。国際情勢や金利差により円安が続いており、海外からの観光客も１０月にはコロナ前の同月比を超える２,５１６,５００人になりました。

円安効果は輸出関連企業の高収益に反し、中小企業や消費生活では、一昨年のロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのパレスチナの侵攻による中東の情勢の不安定が、原材料の高騰、円安により物価高騰でコロナ感染症から解放されながらも全体的には厳しい年でした。

明るいニュースは大谷翔平選手の年間にわたる活躍です。WBC では世界一、アメリカンリーグで２回目の MVP 獲得、年末には史上最高の移籍金でドジャースに加入と世界一のアスリートとして注目されました。世界陸上での日本人の活躍。特に印象に残ったのは女子やり投げで北口榛花さんの優勝。サッカー・卓球などスポーツ界は日本人の活躍が光った年でした。

島根県では４月に知事・県議会選挙があり「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を目指す丸山達也氏が２期目の島根県知事として当選されました。私も３期目を目指し、多くの方々の支持を受け当選することができました。

残念なことは、島根県の発展に貢献されていた青木幹夫氏、細田博之氏の死去でした。お二人とも日本の政界を引っ張って来られ、高齢化や人口減少が進む地方のために数々の政策を実現していただいた方です。心よりご冥福をお祈りします。

島根県の課題は、高齢化と人口減少です。令和５年１２月１日の推定人口は６４８,２４９人と６５万人を切る状況になりました。原因は自然減と就学による社会減であり、この社会減には希望する働き先が少ない点もありますが、毎年約２,７００人が大学や短大に進学しています。しかし、島根大学と島根県立大学を合わせても入学定員数は１,６００人で必然的に県外へ行かざるを得ないのです。しかも、県外からの入学者が各大学とも多く、さらに門が狭くなっています。こうした中で、丸山知事は就学中の大学生に対する島根県県内就職への働きかけ、島根大学に理工系の学部新設、島根県出身の県外学生への回帰に精力的に取り組まれており、その成果も出始めています。特に女性の

回帰が少ないため、県内企業に対し女性に優しい職場づくりを連携して取り組まれています。

日本全体が人手不足となっていますが、それ以上に島根県は厳しい状況です。人口減少の著しい中山間地域で社会機能維持が大きな命題となっていますが、全国の地方がこのような状況に置かれており、東京一極集中の状況は早く是正しなければなりません。

昨年１２月の地方創生・行財政改革特別委員会において「ふるさと教育」について課題提起をしました。小中で市町村が進めている「ふるさと教育」ではアンケートを取ると多くの子供たちが故郷で働きたいと回答するのに現実は就学で帰ってこない状況はなぜなのか。西部のほうでは子供神楽で育った人たちは県外に進学しても帰ってくる現象は何なのか。決して「ふるさと教育」を否定するのではありません。「ふるさと教育」に加え友情とか使命感が相まって回帰しているのではないでしょうか。もちろん、こうした教育は現在でも行われていますが、就学と同時に個々の生活に追われ、こうした横のつながりに対して行政と個人の関係での結びつきで進められており、もう少し横のつながりを重視した取り組みを考えてほしい。コロナを通じて情報社会が地方を救う大きな手段になることを力説しました。

私の使命は、議員として中山間地の暮らしを守る政策を実現するために働かなければなりません。中山間地域の暮らしを守るには社会資本や産業の充実とともに、人口減少に歯止めをかける点にあります。鳥獣被害が毎年大きくなる中で、一次産業の農業や林業の振興は国土全体を守る大きな役割を持っていながら、産業的には厳しい状況です。

IOT、AI、DX と情報を中心とした産業が芽生えつつある中で、地方でも新しい産業が息づく可能性を秘めている状況です。人手不足の解消や地方から全国への情報発信、日本の原風景の中で高付加価値産業の育成による生活、そうした生活が中山間地域でも実現できる島根県を目指したいと思います。

新しい年を迎えました。今年の干支は辰で、竜は古来より中国では権力の象徴とされ縁起の良い架空の生き物とされています。今年は昇り竜のごとく頑張る所存でありますので、引き続きご指導・ご鞭撻をよろしくお願いします。

皆様にとって今年１年が、幸せな年になりますようお祈りします

島根県議会議員　高橋　雅彦